

大阪市立大学医学部附属病院

神経精神科

人権センターニュースNo.107 より

(平成 23 年 11 月 15 日訪問)

平均在院日数 41.4 日 (H22 年度平均)

積極的な取組など

- ・天井までの高さの鉄柵が設置され、患者にとってよくない環境だと内部で声があがり、議論を重ねて平成 22 年に 2 室を個室に改築していた。
- ・掲示物「カルテ開示をしています」「携帯使用エリア・電源 OFF エリア」は図で表示されていて、分かりやすかった。
- ・携帯電話は、医師の許可があれば持ち込みができ、夜間は電源をオフにするルールとのことだった。
- ・隔離室の患者には携帯式のナースコールが渡される。
- ・夜間帯は、男性病室と女性病室のエリアが扉とジャバラカーテンで区切られるようになっていた。
- ・ベッドサイドでも面会ができる。
- ・ベッド周りは自由に物を置ける。
- ・患者からは「親しみやすいスタッフなので安心した。言葉遣いもよい」との声があった。

病棟について

入院ルート・退院

入院は、診療所からの紹介や総合病院よりの転院、措置入院(昨年度は3名)など。外来通院中の患者とそれ以外の患者の比率は2対1程度。平均在院日数は病棟の基準を満たすために80日以内であることが必要で、大体40~50日。3ヶ月での退院を基本とし、そのことは入院時に説明をする。退院が難しい場合には転院してもらうこともあるが、実際は自宅等に退院する患者が多い。認知症の患者が増えている。認知症の患者は検査のための入院で、1ヶ月以内に退院することが多い。平成22年から病棟専属のPSWが配属された。訪問日は40床のうち28名が入院していた。

意見箱

意見箱は各病棟の事務員が回収し、病院全体の委員会で話合われ、病棟毎に回答を掲示。

行動制限最小化委員会

行動制限最小化委員会はないが設置する方向で話し合っている。行動制限中の患者については、毎日、医師と看護師とPSWでカンファレンスをして最小化に努めている。

職員研修

院内感染、医療安全に関する研修は、病院全体として、全職員が年2回以上院内研修に参加している。他にも院内で救急、接遇などの各分野にわたる研修が年間計画のもと行われ、職員のレベルに応じて参加している。病棟としては、精神保健福祉法、倫理に関する学習会をそれぞれ3ヶ月に1回以上行っている。それ以外にも精神科に関する学習会は毎月1~2回行っている。外部の研修にも毎年3分の2以上の職員が年に1~3回参加し、報告会を行っている。

金銭管理

床頭台に鍵付の部分があり、殆どの患者はそれを利用して自己管理している。病棟管理(無料)は、2~3名。

前回の訪問(平成19年4月)から改善されていたこと

3室あった隔離室のうち、2室は鉄格子をはずして個室になっていた。他科と同じようにということで、鍵付の部分のある床頭台が設置されていた。

病棟の様子

蔦が見える6階の病棟。常勤医師が12名。訪問時も若い医師がたくさんいた。看護部はしっかりとした話しのできる方々で病棟運営の課題についても話してもらえた。常勤21名。医師も看護師も人数が多く、詰所やデイルームの辺りは活気にあふれていた。病棟の奥に行くとき静かだった。廊下は広く、歩行の邪魔にならないように、さりげなくパステルカラーの座りやすい長椅子が置かれていた。静か過ぎず賑やか過ぎず、良いざわめき具合で普通の内科のような空気だと感じた。トイレは清潔だった。

詰所付近に、「医療相談の案内」もあった。レクリエーションの習字も貼られていた。思い思いの文字や言葉、絵が書かれていた。「父植し、山茶花さきし、しのぼるる」「うれしいんだ 生きる喜び」「出合いは人を変え、成功は人を育てる」の他、ドラえもんの絵などもあった。

屋外のテラスを挟んだL字型のデイルームでは、畳スペースでくつろぐ患者の姿があった。中央では机を囲んでレクリエーションが行われ、食事用の机と椅子がある所では2名の患者がテレビを見ていた。冷蔵庫、湯や水も出る給茶器、本やマンガがたくさん置かれている本棚があった。デイルーム以外では病室で話す患者、数人で外出をする患者、ベンチで医師と話す患者などめいめいのペースで時間が流れているようだった。

レクリエーションは週4回あり、内容は患者と看護

師で話し合っただけで決まるとのことだった。ストレッチ教室や季節の行事は、ボランティアに協力をしてもらっているようだ。

電話

電話ボックスは2つあり、1つは扉付、もう1つには扉がなかった。

隔離室 1室(病院側の説明)

現在、鉄柵のある隔離室は1室が残っているが、なるべく隔離室を使わずに個室を使うようにしている。一時的に隔離室を使ってもなるべく早く個室に移ってもらうように努力をしている。隔離室は年間を通じて大体3割位使用しているが、最長で1ヶ月の利用(1ヶ月利用したケースは、個室が空いておらず、解離性障害と統合失調症で、興奮、妄想、暴言等があったため)。取り組みの進んでいる病院を見学させてもらい、学んでいる。個室対応の方が後の治りがよいという声もあがっている。隔離室を使用するのは、興奮度の高いときのみにし、使用時間もできる限り短くするようにしている。また、個室も含めてできるだけ鍵を開けて使用するようにしている。

壁が固いので、クッション性のある壁紙を貼る予定で予算請求をしている。トイレに囲いがなく、衝立をつくれなかと議論があったが、簡易な衝立を壊さない状態の患者は入室対象にはならないことや、完全にトイレを別室にするのは予算上難しい現状である。中から流せないの、携帯式のナースコールで呼ぶ。

洗面は看護師が付き添う。患者によっては室内で行う。歯磨きは毎食後にする。食事の前後にはおしぼりを出す。お茶、お水は、毎食時にペットボトルを出す。持ち込みできるものは、コップ、ペットボトル、ティッシュ、スリッパ等。症状により雑誌、筆記用具も可。毎日のカンファレンスで検討する。

前室には、カレンダー、湿度、温度、曜日が大きな字で表示されているデジタル表示板があり、分かりやすかった。

個室

鉄柵があったところには透明の強化プラスチックがはめられ、その壁と窓の間には観葉植物が置かれ、窓にはゼリー状のシールが貼られていた。トイレは壁で仕切られ、扉もあった。

病室

4人部屋が中心で2~3名で使用している部屋が多かった。各部屋に洗面台があり、窓際には、カウンターのようなものがあり、外を見ながら書き物をしたりできる。

患者の声

「快適です。療養計画書をもっていて、4週間以上入院とあった。嫌なことはない。病棟からはまだ出たことはない。診察は週3回で、特に要望はない。お風呂はゆったり入れる」「普段自分の部屋に置いてあるぬいぐるみを連れてきたので安心できる」「特に困っていることはない。ゆっくり休んで(療養して)いる」「お風呂は日曜日以外、毎日入れる」

検討していただきたい事項

隔離室について

隔離室の照明は前室のみで隔離室内にはないため、暗いことから、「(夜間)入れられると怖い」との声が届いているとのことだった。隔離室の壁については、クッション性のある壁紙を貼る予定で、その改善のための予算を請求しているところとのことだったので、照明についても改善に向けた検討をお願いしたい。(病院: 隔離室の照明についてですが、ご指摘を受けまして、照明を設置し改善を図りました。なお、壁につきましても、クッション性の壁紙を貼るべく、準備に入っているところであります。)

権利擁護機関の連絡先の掲示について

電話ボックス内の連絡先等が記載された掲示物は、大きな文字で見やすいが、説明が分かりにくかった。利用する側にとって分かりやすい掲示物にするように検討をお願いしたい。(病院: 連絡先の掲示とともに説明文を掲示していますが、わかりにくいとのことでしたので、見やすいように大きくしたものを掲示することにしました。)

精神保健福祉資料より(平成22.6.30時点)

23名の入院者のうち気分障害が9名(39%)、統合失調症群8名(35%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害5名(22%)。

入院形態は任意入院18名(78%)、医療保護入院5名(22%)。在院期間は1年未満が23名(100%)。